



志野

美濃地方独特の白土に長石釉を厚く掛けて、高温の大窯で焼成した白い器。ゆず肌のような小さな穴や自然に生まれた緋色が素朴な味わいを醸し出す。無地志野、絵志野、鼠志野など、茶碗や水指といった茶陶に優れている。



美濃唐津

美濃で焼かれた唐津風のやきもの。向付などの食器類が多い。唐津織部ともいう。



美濃伊賀

花入や水指などで見られるような伊賀風の形をしたやきもの。伊賀織部ともいう。



織部

種類は豊富で見ると驚かせる意匠が特徴。ゆがんだ茶碗、おどけた茶碗が織部の生み出した様式である。一部に銅緑釉を掛け、残りの部分に鉄絵具で文様を描き白釉を施した青織部、黒釉を掛けた織部黒などがある。



染付

白磁の素地にコバルト（呉須）による絵付けを施し、その上に釉薬をかけたもの。



瀬戸黒

鉄釉を施し、釉薬が溶けている途中で窯から引き出し、急冷させて黒色釉としたもの。



青磁

青い釉の掛かった高火度焼成のやきものこと。窯の技術改良が進み緑色の美しい青磁として完成された。



餡釉

鉄分を主成分とする釉（鉄釉）の一種で、焼成すると餡色に発色することから名付けられた。



粉引

鉄分の多い土質の素地の上に白い化粧土を覆い、さらに透明釉を掛けたもの。



天目

天目山で焼成したので天目と呼ぶなど諸説あるが定かではない。その形状や、釉薬と同種の鉄黒褐色釉を天目と呼ぶ。



鉄釉

鉄分を呈色剤とする釉薬を掛けたもの。



黄瀬戸

薄めの生地に灰釉を薄く掛け、焼成することによって黄色に発色してできたやきもの。薄作りで釉薬の焼け具合がしっかりとっていて、菊や桜の印花、菖蒲や梅の線彫り文様が特徴。



赤絵

赤を主調として他の色を加え、簡素で大胆な文様を施したもの。

土岐市の
美濃焼伝統的工芸品
全15品目
指定品目数は日本一の15品目。
古来より美濃焼の産地で守り継がれてきた、伝統の技が光る品々です。

11月は伝統的工芸品月間

「特集」

受け継がれる匠の技

約1300年前より美濃焼の産地として栄えてきた土岐市。一口に美濃焼といってもその種類は数十種類におよび、先人たちのさまざまな知恵や技法が現代に受け継がれています。今回の特集では、伝統的工芸品として指定を受けた数々の美濃焼や、その技術の継承の担い手である、伝統工芸士について紹介します。
問 美濃焼伝統産業会館 ☎5527



製造分野において、世界でトップクラスの技術力を誇る日本。その繁栄は、日本固有の伝統的な「ものづくり文化」に起因するともいわれています。伝統的技術を伝承し、長い歴史や風土の中で培われながら、その文化を今日まで継承してきたもの、それが「伝統的工芸品」です。

主に日常生活で使われる物であり、伝統的技術・技法によって主要な部分が手作りである、また、一定の地域で産地を形成しているなど、いくつかの要件を満たし、国の指定を受けたものだけが伝統的工芸品と呼ばれます。平成29年1月現在、全国では美濃焼、有田焼など225品目が同様に指定され、そのうち土岐市では美濃焼の15品目が指定（指定品目数日本一）されています。

伝統的工芸品を作り上げる伝統工芸士たち。彼らはその産地において、伝統的技術・技法に熟練した従事者であり、産地を代表する高度な技術保持者です。また、その高度な技術と知識を生かしながら、後継者を育成し、同品の普及や新製品の開発などに取り組んでいます。市では32人の方々が美濃焼伝統工芸士として活躍しています。